

かんきょうはくしょ  
こども環境白書



# も く じ

- 1 かんきょうしゅと 環境首都とくしまの じつげん 実現に向けた む 取り組み とりく

かんきょうしゅと 環境首都とくしま・みらいそうぞうけんしやう 未来創造憲章 … 1
- 2 きこうへんどうてきおう 気候変動適応とくしま

きこうへんどう 気候変動に てきおう 適応した ぼうさい 防災・げんさいりよく 減災力の こうじやう 向上 … 2

きこうへんどう 気候変動に てきおう 適応した さんぎやうけいざいかつどう 産業経済活動・けんみんせいかつ 県民生活の あんてい 安定
- 3 かんきやうたいさく エシカルで環境対策

かんきやう 環境に はいりよ 配慮した しやうひ エシカル消費の すいしん 推進 … 3

かんきやうきやういく 環境教育・かんきやうがくしやう 環境学習の じゅうじつ 充実
- 4 ちいき 地域に ね 根ざす しぜん 自然・すいそ 水素エネルギー

しんじげん 新次元の おんしつこうか 温室効果ガス さくげん 削減 … 4

しぜん 自然・すいそ 水素エネルギー どうにやう 導入の すいしん 推進 … 5
- 5 こうじゆんかんしやかい 好循環社会とくしま

みずしげん 水資源・たいきかんきやう 大気環境の ほぜん 保全 … 6

しげん 資源の じゆんかんりやう 循環利用
- 6 いや 癒しの さと 郷とくしま

たやう 多様な しぜんかんきやう 自然環境の ほぜん 保全と そうぞう ふれあいの そうぞう 創造 … 7

せいぶつたやうせい 生物多様性の せいかご ゆりかごとくしまの そうぞう 創造
- 7 かんきやうしゅと みんなでつくる環境首都

けんみん 県民による じしゆてき 自主的な かんきやうほぜんこうどう 環境保全行動の そくしん 促進 … 8

こういきてき 広域的な かんきやうほぜんたいさく 環境保全対策

かんきやうほぜん 環境保全に関する かん 調査研究及び ちやうさけんきやうおよ 情報発信の じやうほうはっしん 充実 じゅうじつ

# 環境首都とくしまの実現に向けた取り組み

## 環境首都とくしま・未来創造憲章

本県では、平成25年12月に策定した「第2次徳島県環境基本計画」の推進に向け、平成27年1月に「環境首都とくしま・未来創造憲章」を制定しました。

憲章は大きく分けて、「前文」、「本文」、「キッズバージョン」で構成されています。

### ●前文

憲章制定の理念等を表し、「未来の世代に贈るメッセージ」としています。

### ●本文

県民のみなさんに日常生活の様々な場面で環境行動へつなげていただくための行動指針を示しています。

### ●キッズバージョン

子どもたちも分かりやすく取り組みやすい項目を各項目の頭文字をとって「きみもさんかして」と呼びかける形にしています。

### キッズバージョン

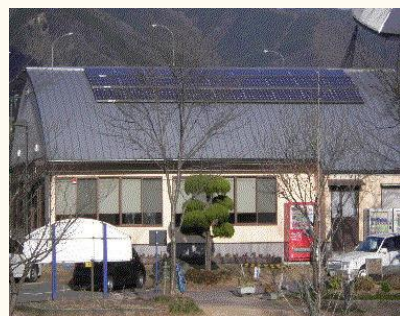
き	きれいなとくしまの海や山，川で楽しく遊び，みんなで守っていこう。
み	水は大切に使う。
も	ものはさいごまで大切に使う。
さん	さまざまな花や木，動物は心をこめて育てよう。
か	かんしゃの気持ちをもって，ごはんや給食はのこさず食べよう。
し	しぜんにやさしいことを学び，友達や家族に教えてあげよう。
て	電気はこまめに消そう。



## 2 気候変動適応とくしま

### ●自然・水素エネルギーの活用

徳島県では災害に強い特性を有する自然エネルギーを活用し、さまざまな施設への太陽光パネル、LED照明、リチウムイオン蓄電池等の整備を着実に進めています。



太陽光パネル設置施設

また、県内各地で開催されるイベントで普及啓発を実施し、「走る発電所」といわれる燃料電池自動車（FCV）による外部給電の実演を行うなど、災害時の「水素」の活用事例について、県民に身近な場面で水素エネルギーの有用性についての周知を図りました。



FCVによる外部給電

### 気候変動に適応した産業経済活動及び県民生活の安定

#### ●県民生活における「適応策」の浸透

平成28年10月には、今後これまで以上に県民生活に関する幅広い分野での影響が懸念されることから、そのリスクをできる限り低減するため、本県における適応策を取りまとめた「徳島県気候変動適応戦略」を策定しました。

令和元年度には、気候変動プラットフォーム（ホームページ）を構築し、適応策についての様々な情報を発信するとともに、適応策普及啓発用の小冊子やしおりを作成するなど、積極的な啓発活動を実施しました。



「適応策」に関する小冊子やしおり



# 3 エシカルで環境対策

## 環境に配慮したエシカル消費の推進

### ●地域社会におけるエシカル消費の推進

日本における食品ロスの発生量は、年間約 600 万トンと推計されています。限りある食糧を無駄なく消費し、温室効果ガスの発生源となる廃棄食品を削減することは、エシカル消費の理念にもつながり、今後一層の取組の推進が求められています。

学校、消費者団体、小売店、フードバンクや子ども食堂の運営者等、多様な主体との連携により、普及啓発を実施しました。例えば、「食品ロスとは何か、食品ロス削減のために何ができるのか」について考える出前授業や家庭で余っている食品を寄付いただき、「NPO 法人フードバンクとくしま」を通じて支援を必要としている施設等に提供するフードドライブを積極的に実施しました。

新たな環境問題として、プラスチックごみによる海洋汚染対策が国際的な課題となっており、本県においては、「マイバッグキャンペーン」を行うとともに、令和元年度からは「マイボトルキャンペーン」を新たに開始するなど、取組を拡充し、更なる普及啓発を図りました。



食品ロス削減啓発イベント



食品ロス削減セミナー

## 環境教育・環境学習の充実

### ●総合的な環境教育・環境学習の推進

本県では、平成19年3月に「とくしま環境学習プログラム」を作成し、その普及を図るため、モデル的な取組に対し、支援しました。

また、平成16年度から「学校版環境ISO」の認証取得を通じて児童・生徒・教職員が一体となった継続的かつ自主的な環境保護活動を推進してきましたが、平成24年度からは、これまでの活動を家庭や地域にも広げる「新 学校版環境ISO」に移行を始め平成27年度末に移行を完了しました。

令和4年度からは、脱炭素社会実現に向け、持続可能な社会の創り手を育成するため、従来の取組に加え、環境とSDGsの関わりを意識した取組を実践する「とくしまGXスクール」の認定に順次移行を始めました。



出前講座



活動の様子



# 4 地域に根ざす自然・水素エネルギー

## 新次元の温室効果ガス削減

### ●気候変動「緩和策」の加速

私たちの社会経済活動の拡大に伴い、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量が増加し、地球温暖化が引き起こされると考えられています。

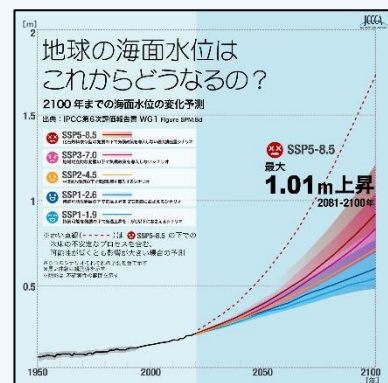
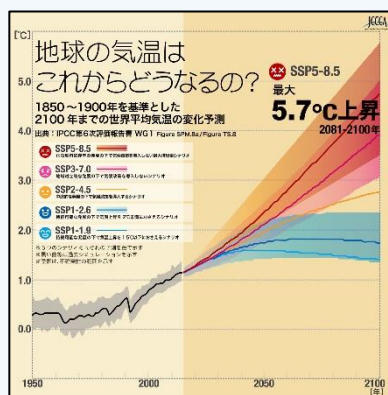
IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第6次報告書によると、今世紀末の世界平均気温の将来予測は、工業化前と比べて最大5.7℃もの上昇や、最大1.01mの平均海面水位の上昇も懸念されています。

このような気温上昇に伴い、海面水位の上昇による陸地の減少、生態系の影響等が生じるおそれがあり、私たちの生活に甚大な被害が及ぶ可能性が指摘されています。

こうした中、令和2（2020）年度の全国の温室効果ガス排出量（確報値）は、11億5,000万t-CO<sub>2</sub>となっており、前年度比で総量が5.1%減、基準年平成25（2013）年度比では総量が18.4%減との結果となっており、前年度からの減少要因としては、エネルギー消費量の減少（主に産業部門と運輸部門）に伴うCO<sub>2</sub>排出量の減少等が挙げられます。

本県では、平成28（2016）年10月に全国初の「脱炭素社会の実現」を掲げる「徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例」を制定するとともに、同年12月には、2030年度を目標年として「2013年度比40%削減」の温室効果ガス削減目標を掲げ、県民総ぐるみで施策を推進してきました。令和2（2020）年3月に気候変動対策推進計画（緩和編）を策定し、温室効果ガス削減目標を「2013年度比50%削減」に上方修正するなど、全国に先駆けた取組や本県独自の施策を盛り込んだ対策を推進しています。

平成29年度から、温室効果ガス排出量の削減とレジリエンス強化を同時に達成できる蓄電システムを備えたZEH・ZEBに対する補助を行っています。



（出典）全国地球温暖化防止活動推進センター  
IPCC第6次評価報告書特設ページ



ZEHのモデルハウス

※ZEH：ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス  
ZEB：ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング

# 4 ちいき ね しぜん すいそ 地域に根ざす自然・水素エネルギー

## しぜん すいそ どうにゆう すいしん 自然・水素エネルギー導入の推進

### ● しぜん りっけん すいしん 自然エネルギー立県とくしまの推進

ひがしにほんだいいしんさい けいき ほんけん へいせい ねん しぜん  
 東日本大震災を契機に、本県でも、平成24年に「自然エネ  
 ギー立県徳島推進戦略」を策定（平成27年改訂）し、自然  
 エネルギーの導入促進に積極的に取り組んできました。

れいわ がんねん がつ あら しぜん りっけん すいしん  
 令和元年7月、新たに「自然エネルギー立県とくしま推進  
 せんりやく だつたんそしやかい じつげん さくてい ねん だつたん そ  
 戦略～脱炭素社会の実現へ!～」を策定、2050年の脱炭素  
 しゃかいじつげん めざ ねんど しぜん じきゆう  
 社会実現を目指し、「2030年度・自然エネルギー自給  
 りつ もくひょう かか  
 率50%」を目標に掲げました。

ちいき ほうふ そんざい しぜん しげん さいだいげん  
 また、地域に豊富に存在する自然エネルギー資源を最大限  
 かつよう ちいき かつせい か ほか せん くてき てき  
 に活用し、「地域の活性化」を図るため、先駆的・モデル的な  
 とりくみ すいしん しぜん かつよう のうりん  
 取組を推進するとともに、自然エネルギーを活用した農林  
 すいさんぎょう しぜん かんれんさんぎょう しんこう せっきよくてき と  
 水産業や自然エネルギー関連産業の振興に積極的に取り  
 組んでいます。

すいそ ちきゅうおんだんかたいさく き ふだ ちゅうもく  
 水素エネルギーは地球温暖化対策の切り札として注目  
 ほんけん ちほうはつ すいそしやかい じつげん お  
 されています。本県では、「地方発の水素社会」実現に向け、  
 へいせい ねん がつ さくてい とくしまけんすいそ こうそう もと  
 平成27年10月に策定した「徳島県水素グリッド構想」に基づき、  
 すいそ しゃかいじつそう と く  
 水素エネルギーの社会実装に取り組んでいます。

けんちようしきちない しぜん 由来 すいそ  
 県庁敷地内に「自然エネルギー由来・水素ステーション」

せいび ぜんこくはつ ねんりょうてんち  
 を整備するとともに、全国初となる燃料電池パトカーの  
 どうにゆう けんこうようしや ねんりょうてんちじどうしや そっせんだうにゆう  
 導入をはじめ、県公用車に燃料電池自動車を率先導入し、  
 すいそ ふきゅうけいはつ せっきよくてき かつよう  
 水素エネルギーの普及啓発に積極的に活用しています。

れいわ ねんど ちさんすいそ かつよう ぜんこくはつ せいぞう  
 令和3年度には、「地産水素」を活用した全国初の「製造・  
 きょうきゅういつたいがた すいそ かどう かいし ちゅうしこくはつ  
 供給一体型」水素ステーションが稼働を開始し、中四国初と  
 ねんりょうてんち ろせんうんこう なんとせん かいし  
 なる燃料電池バスが路線運行（鳴門線）を開始しました。

そうごうぼうさいくんれん けんないかち  
 また、総合防災訓練をはじめ、県内各地でのイベントとタイア  
 かつち ふきゅうけいはつ じっし はし はつてんしよ  
 ップする形で普及啓発を実施し、「走る発電所」といわれる

がい ふきゅうてん じつえん おこな さいがい つよ すいそ  
 FCVによる外部給電の実演を行うなど、災害に強い水素を  
 せっきよくてき ほんしん  
 積極的に発信しました。



ふうりょくはつてん 風力発電



たいりやうこうはつてん 太陽光発電



な かちようしやうすいりょく 那賀町小水力 (街灯)



な かちようしやうすいりょく 那賀町小水力 (装置)



ねんりょうてんち 燃料電池パトカーの導入



すいそ 水素ステーションの稼働開始



ねんりょうてんち ろせんうんこうかいし 燃料電池バスの路線運行開始



# 5 好循環社会とくしま

## 水資源・大気環境の保全

### ●水資源保全対策の推進

本県の公共用水域は、吉野川水系及び那賀川水系を中心に、恵まれた水環境を形成し、水産業などの産業や住民の交流の場としても広く利用されています。水質汚濁物質の濃度について、「環境基準」が定められており、令和4年度に河川76地点、海域31地点の計107地点で水質測定を行いました。代表的な水質指標として河川ではBOD(生物化学的酸素要求量)、海域ではCOD(化学的酸素要求量)があり、令和4年度の環境基準達成状況は、河川が96%、海域が100%でした。



水を育む豊かな森林

### ●大気環境の保全

本県の大気汚染物質の環境濃度は、近年ほぼ横ばいに移っており、令和4年度においても同様な状況となっています。一般局(一般環境大気測定局)では、二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質については、全ての測定局で環境基準を達成しています。光化学オキシダントについては、17測定局全てで環境基準を超える日がありました。



環境大気測定車

一方、自排局(自動車排出ガス測定局)では環境基準を100%達成しました。大気環境の保全のために、一般局、自排局、移動測定車による大気汚染の常時監視を行ったほか、発生源に対しては、大気汚染防止法等の指導を行いました。

## 資源の循環利用

日本は、20世紀後半から社会経済活動が拡大し、大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会となっています。大量の廃棄物の発生は、処理施設の不足や不法投棄・不適正処理などの様々な問題を引き起こしています。こうしたことから、廃棄物の発生を抑制し、再使用、再生利用を進める「循環型社会」の構築が求められています。

本県では、循環型社会の形成に向けた県民・事業者・行政等の役割を示した「徳島県廃棄物処理計画」を策定し、総合的な廃棄物の発生抑制対策や資源の回収・再生利用を推進しています。





# 6 いや さと 癒しの郷とくしま

## 多様な自然環境の保全とふれあいの創造

### ●多様な自然環境の保全の推進

すぐれた自然の風景地を保護するため、本県には、瀬戸内海国立公園、剣山と室戸阿南海岸の2つの国立公園、6つの県立自然公園等が指定され、遊歩道、トイレ、展望施設等の維持管理を行いました。また、近年、不法投棄の増加や野生植物の持ち去りなどマナーの低下等が問題になっているため、県民との協働のもと、監視体制の充実・強化を図り、自然公園等の保全と適正な利用を促進しています。



室戸阿南海岸国立公園

### ●生物多様性保全の推進

本県には、約3,500種の植物、約650種の脊椎動物などの野生動植物の生息・生育が確認されています。これらの野生生物のなかには絶滅のおそれのあるものもあることから、平成18年3月に、「徳島県希少野生生物の保護及び継承に関する条例」を制定し、野生生物の保全を進めています。



アカウミガメ

### ●自然とのふれあいや理解の推進

県民の自然とのふれあいの関心は年々高まっていることから、自然公園の施設整備や長距離自然歩道（四国のみち）の整備が行われています。

また、佐那河内いきものふれあいの里ではネイチャーセンターや自然観察スポット等を整備し、自然観察指導員を配置するなど、自然とのふれあいと自然保護活動や自然保護思想の普及啓発を進めました。



自然環境学習

## 生物多様性のゆりかごとくしまの創造

### ●生態系の保全・回復・持続可能な活用の推進

コウノトリは、2017年に鳴門市において、兵庫県豊岡市とその周辺地域を除く地域としては、全国初となる野外繁殖に成功しました。野外のコウノトリは、200羽を超えるまでに数を増やしていますが、人の手を借りない真の野生復帰により繁殖地を全国各地に広げることが今後の課題となっています。本県では、令和元年度は、足環装着や救護用具の配置などの取組を行い、コウノトリの保護に尽力しました。

# 7 みんなでつくる環境首都

## けんみん じしゅてき かんきょうほぜんこうどう そくしん 県民による自主的な環境保全行動の促進

### ●パートナーシップによる環境保全活動の促進

本県では、平成12年1月にとくしま環境県民会議が設立され、環境負荷の低減に向けた取組を推進しています。令和4年度には、プラスチックごみの削減等をテーマに意見を交換しました。

また、団体や企業がボランティアで地元の道路や河川、公園などの清掃活動を行うアドプト・プログラム制度が定着し、令和4年度末現在、県内で、718団体、延べ約3万8千人が参加登録し、活動を行っています。



フラワーアドプト

## こういきてき かんきょうほぜん 広域的な環境保全

### ●多様なネットワークによる取組の推進

平成22年12月、複数府県により構成する全国初の広域連合

として、関西広域連合が発足しました。関西広域連合では、広域的な課題などに取り組んでおり、中でも広域環境保全分野においては「温室効果ガス削減のための広域取組」、「府県を超えた鳥獣保護管理の取組」など、様々な取組を展開しました。四国4県においても、連携して共通の課題に取り組むため、クールビズのポスター図案の募集など連携した普及・啓発活動などを推進しました。



クールビズ・ウォームビズポスター

## かんきょうほぜん かん ちやう さけんきやうおよ じやうほうはっしん じゅうじつ 環境保全に関する調査研究及び情報発信の充実

### ●調査研究の推進

保健製薬環境センターでは、環境施策の推進に役立つことを目的とした、きめ細かな環境データの取得に向けた取組を加速させました。工業技術センターでは、消費電力の少ないLED照明器具などの開発支援、バイオプラスチックを活用した新しい製品開発など、環境に対して直接的・間接的に影響を及ぼす様々な分野での取組を行いました。



工業技術センター

### ●環境情報提供の充実

ホームページや広報誌による環境情報の提供など様々な方法を用いて環境情報の提供に努めています。また、環境に関する各種の情報を取りまとめた「とくしまの環境」をホームページ上に開設し、各種の環境情報を早く、分かりやすく提供することに努めています。



とくしまの環境ホームページ



〒770-8570

徳島市万代町1丁目1番地(万代庁舎4階)

徳島県危機管理環境部

グリーン社会推進課 GX戦略担当

電話 088-621-2334

ファクシミリ 088-621-2845

メールアドレス [greenshakaisuishinka@pref.tokushima.jp](mailto:greenshakaisuishinka@pref.tokushima.jp)